

vol. 278

Autumn 2024

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

Contents

- 02 | お茶の水女子大学
創立150周年 ここから未来が広がる

佐々木 泰子
国立大学法人 お茶の水女子大学長

- 04 | お茶の水女子大学 ～徽音祭～
これまでの歩みを振り返って

- 06 | 学生のアクティビティ
第75回 徽音祭

- 08 | 教員紹介
ツァン シンイー
基幹研究院自然科学系 助教

- 09 | 卒業生紹介
大竹 遥 さん
生活科学部人間生活学科生活文化学講座卒業

- 10 | 附属学校園からのお知らせ
お茶の水女子大学附属高等学校



佐々木 泰子

国立大学法人
お茶の水女子大学長

1976年お茶の水女子大学文教育学部文学科国文学国語学卒業、1978年同大学院人文科学研究科日本文学専攻修了、1993年同大学院人文科学研究科日本語文化専攻修了。専門は社会言語学、日本語教育。お茶の水女子大学助手、助教授、教授、国際教育センター長、附属小学校長、理事・副学長を経て2021年4月より現職。

お茶の水女子大学は、2025年(令和7年)11月29日に創立150周年を迎えます。残すところあと一年となりました。今回の特集では、佐々木泰子学長にお話を伺います。

赤松副学長：本日はよろしくお願いします。まず、この150年の中で、本学にとって大きな節目は何だったとお考えですか。

佐々木学長：明治時代に入り、国の施策として、女子教育の振興が掲げられました。そこで、1875年、教員養成を目的とした、本学

の前身である女性のための日本初の高等教育機関「東京女子師範学校」が設立されました。教員養成が目的とされていたこともあり、設立当初から文理融合の教育が行われていました。また、日本初の女子帝大生や女性理学博士など国内外で活躍する多くの卒業生を輩出してきました。

2004年の国立大学法人化も大きな出来事でした。法人化が大学の今後にどのような影響を与えるのかなど、大学のこれからを深く考えることとなりました。本学では、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な

夢の実現の場として存在する」という独自のミッションを掲げました。これは、本学が長年取り組んできた開発途上国も含めた世界の女子教育支援をはじめとして、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援することを企図するものです。そして、今世界が目指している「地球上の誰一人取り残さない」というSDGsの理念にも通じるものです。法人化から20年が経ち、良いことも大変なこともありましたが、2024年4月に共創工学部を開設し、新たなスタートを切りました。



修士課程の
学位記授与式
(3月23日)



学部卒業後の春



学長就任祝い
学部同期生から
贈られたお花

お茶の水女子大学

創立150周年 ここから未来が 広がる

赤松副学長：佐々木学長は、本学の卒業生でもられます。学長からご覧になった本学の変わらないところを教えてください。

佐々木学長：今も昔も、学生様子は変わらないように思います。

私は、山口県出身で大学進学を機に上京しました。受験勉強を頑張ったこともあり、入学後は少しゆっくりしようと考えていたところ、入学すると同級生たちがとても意欲的で、当初は圧倒され、大学生活に不安を感じるようになりました。悩んでいた私に、クラス担任の先生が親身に相談に乗ってくださり、アドバイスをしてくださいました。そして、入学後のGWには地元に戻り、自身のことや大学生活について思いを巡らせ、再び上京した際に、クラスの友人に自分の思っていることを話しました。友人は、私の心に寄り添いながら話を聞いてくれて、悩みや不安もしだいに解消されていったように思います。少人数でクラス担任制というアットホームな環境や、わからないことをわからないと言える雰囲気によって、成長できたと考えています。得意なところや苦手なところを、それぞれが共感し合って助け合い、一生の友達ができました。また、大学院時代にも先生方からのサポートや声がけをたくさんいただき、年齢に関係なく、戻れる大学でもあると強く実感しています。大学時代の友達とは、今でもクラス会を開いて近況を報告しあっています。

赤松副学長：お互いを理解し、支え合うという点は、今の学生も同じですね。

佐々木学長：そうですね。それぞれの個性が活きる雰囲気や、優しく共感的な学生が多いように思います。

赤松副学長：本学の今後の歩む道について、展望をお聞かせください。

佐々木学長：「女子大は必要ですか？」と質問を受けることがあります。かつて女子が高等教育を受けることが困難だった時代から、本学は学ぶ意欲を持って、社会のために役立ちたいと望む女性たちのために、道を切り拓いてきました。一方、今日の社会においても、諸外国と比較して日本の女性の活躍は十分とは言えない現状です。ジェンダーギャップ指数2024では、156か国中118位とOECD諸国の中で最下位という結果からも分かんと思います。そのような状況下で、女子教育の先達としての優れた歴史を持つ本学の果たすべき役割は大きいと考えています。

これまで刻んできた伝統を引き継ぐとともに、新たな時代の要請にも応じた学びと研究の環境を整備して、リーダーシップを発揮し、新たな社会的価値を創造する女性たちの育成に努めたいと思います。

赤松副学長：どのようなかたちで、創立150周年を迎えたいと考えていらっしゃいますか。

佐々木学長：在学生や卒業生、附属学校園、教職員など、オールお茶の水でお祝いができるというなと思っています。本学の校歌「みがかずば」は、幼稚園から大学まで同じ校歌です。附属学校園では行事等で歌う機会が多いですが、大学では式典等で歌う機会はあるものの、その機会は少ないです。短い歌詞の中に込められた意味を理解し、みなさんと大切に歌ってお祝いをしたいですね。また、創立150周年を迎えることを記念して、新たな「お茶の水女子大学学生歌」を制作します。創立150周年記念式典において初演予定です。

さらに、同窓会団体である桜蔭会など、本学の活動と運営を支えてくださるステークホルダーの皆さまにも感謝を伝えるとともに、歓びを分かち合うことができるよう準備を進めてまいります。

赤松副学長：最後に皆さまへメッセージをお願いします。

佐々木学長：本学は、2025年に創立150周年を迎えます。

世界は今、気候変動や人口動態の激変など、地球規模で連帯して解決に取り組まなければならない様々な課題に直面しています。それらの課題に向き合い、教育・研究・社会貢献に資する私たちの目線での発信、本学らしい取り組みを行っていききたいと思います。

赤松副学長：そうですね。社会とともに歩み続けていきたいですね。佐々木学長の学生時代のお話も交えながら創立150周年に向けた想いを伺うことができました。本日はどうもありがとうございました。



お茶の水女子大学 ~ 微音祭 ~ これまでの歩みを振り返って

微音祭は、お茶の水女子大学で75年の長きにわたって続く学園祭です。学生たちは数か月をかけて、企画から当日の運営まですべてを行います。今号では『お茶の水女子大学百年史』（「お茶の水女子大学百年史」刊行委員会、1984）や過去のパンフレット等を参考にしながら、微音祭の歴史を振り返っていきます。

第1回微音祭は、1950（昭和25）年に開催されました。その起源は、1946（昭和21）年に開催された文・理・家政・体育各科競演の演劇祭のようです。「微音祭」の名称もこの演劇祭で決定されたとのこと。第1回微音祭では、講演会、音楽会、箏曲演奏、ダンス劇といった催し物が企画されました。

1955（昭和30）年ごろには、ダンスパーティーや前夜祭が開催されるようになりました。ダンスパーティーはその後20年以上続けられ、前夜祭では、のちに歌手によるコンサー

トが行われるようになります。昭和40年代に入ると、サークル単位で喫茶店や軽食堂といった模擬店を出すことが盛んになった一方、実験や展示の発表も行なわれていました。

昭和50年代に入ると、サークル以外に学科企画としての模擬店も並ぶようになり、微音祭は一層賑やかなお祭となりました。



1994（平成6）年のパンフレット



1975（昭和50）年のパンフレット



1983（昭和58）年



2009（平成21）年



2015（平成27）年



2017（平成29）年



2023（令和5）年



2019（令和元）年のパンフレット

食物栄養学科伝統の「ときわじるこ」



年の微音祭で初めて提供されたとも言われています。当初はサツマイモが使用されていましたが、昭和40年代中頃から白餡が使用されるようになったようです。

時代に合わせた工夫がされながらも、代々引き継がれてきた名物ときわじるこ。その美味しさの秘密について、「ときわじるこ係」の学生に伺いました！

ときわじるこ係の学生に聞きました！

ときわじるこは、食物栄養学科の1、2年生が総出で調理しています。普段は関わりのない学年との貴重な交流の場にもなっています。食物栄養学科教員のご指導・ご協力のもとレシピを改良しており、年によって抹茶の加減や甘さがほんの少し異なるので、今年ならではのときわじるこをお楽しみいただけたと思います。

秘伝のレシピのため、詳しいレシピをお教えることはできませんが、簡単にご紹介します。まず、鍋に生餡と砂糖と水を入れ、加熱しながら練り上げます。これは「餡練り」という、調理の中で一番大変な作業です。餡練りをすることで餡の粒子が小さくなり、なめらかな口当たりになります。餡を焦がさないよう絶えずき混ぜなければならず、とても地道な作業ですが、学科一丸となって練り上げています。練った餡を水で伸ばし、抹茶と焼いた餅を加えて完成です。

毎年ときわじるこを楽しみにしてくださるお客様のため、今年も心を込めてお作りします。ぜひお召し上がりください。

担当：中野 裕考 基幹研究院人文科学系 准教授



学生の アクティビティ

お茶の水女子大学

微音祭

テーマ「teatime」とロゴについて



11月9日(土)、10日(日)に開催される第75回微音祭のテーマは「teatime」です。このテーマには、来場者の皆様にお茶大ならではの落ち着いた雰囲気を感じ、素敵な「お茶の時間」を過ごしていただきたいという願いが込められています。あたたかい空間の中で、多くの出会いを通じ、心弾む思い出が生まれるようにと考え、このテーマを選びました。



微音祭実行委員に
インタビュー

テーマロゴには、円形の輪郭と温かみのある色合いのティーポットを用いて、その想いを表現しました。また、皆様とともに豊かな時間を過ごせるよう、ティーポットの中に時計をデザインしました。時計の針は、今年度75回目の微音祭を記念して、7と5の位置を指しています。

おすすめ企画が知りたいです！

まずは微音祭オリジナルグッズです。微音祭限定のスペシャルグッズがたくさん新登場！グッズは、微音祭当日だけでなく、自宅でのくつろぎの時間やお出かけ時にも活躍すること間違いなし。皆さんの日常にぴったりのアイテムを見つけてみてください。

企画内容も見逃せません！今年度は95団体が参加し、個性豊かな企画や出店が盛りだくさんです。お茶大の歌唱力 No.1 を決定する「微音座の歌姫」、毎年大人気の縁日企画、幅広い年代の方が参加できるクイズ大会、キャンパス規模の謎解きもお楽しみいただけます。さらに受験生相談室やキャンパスツアー、模擬授業などもあります。グランドフィナーレの抽選会もお見逃しなく！

活動に際して、心がけていることはありますか？

微音祭パンフレットの制作です。今年度は更にクオリティを高め、微音祭を最大限に楽しむには欠かせない情報を豊富に盛り込んだ、特別なパンフレットを用意しています。第75回微音祭でしか手に入らないこの一冊を、お茶大の正門を入ってすぐの実行委員テントでゲットしてみてください！

また、公式ウェブサイトにも注力しています。テーマ「teatime」にぴったりの愛らしいデザインに仕上げました。さらに、留学生との国際化プロジェクトを通じて、多言語対応も実現。世界中の方々にご覧いただける内容となっています。微音祭に関する最新情報は、公式ウェブサイトをチェック！「微音祭」で検索して、ぜひご覧ください。

副委員長
関根 麻未 さん
生活科学部
心理学科 3年

委員長
石田 里奈 さん
文教育学部
言語文化学科英文 3年

副委員長
池谷 優希 さん
理学部
情報科学科 3年

副委員長
橘江 果穂 さん
理学部
物理学科 3年



最後にメッセージをお願いします！

今年度の微音祭は、長い歴史の中で節目となる第75回目を迎えます。75年にわたる伝統や歴史を受け継ぎながらも、私たちは「今」の微音祭を、そして「今」のお茶大らしさをしっかり魅せていきたいと考えています。

お茶大は、学部生約2,000人が所属する大学です。この規模だからこそ感じられるアットホームな雰囲気を、今年度の微音祭では特に大切にしています。総勢216人の実行委員が約1年かけて準備を進めてきたのも、当日訪れる方々が心から楽しめる微音祭を作りたいという想いからです。

最後に、微音祭は、実行委員だけで成り立つものではありません。これまで伝統を守り続けてきた過去74回にわたるお茶大生や関係者、そしてこれからの微音祭を支えてくださるすべての方々のおかげで、実現できるものです。微音祭を支える皆さまに、深く感謝申し上げます。

たくさんの想いを背負い、進化し続ける微音祭が、今年度もたくさん笑顔を送る場所になるよう、残り数日、精一杯頑張ります。委員一同、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



微音祭実行委員会75th
X



きいちゃん公式
Instagram

今年度新設！

お茶大の妖精
きいちゃん

～きいちゃんについて～

微音祭公式キャラクター「きいちゃん」は、お茶大に住む妖精さんです。頭にはお茶と水がついており、普段は15cmほどの小さな姿ですが、微音祭当日など、みんなに会いたい時は妖精の力で大きくなれちゃうんです。美味しいものが大好きで、お茶大に暮らす仲良しの「お茶ねこ」と遊ぶことも楽しみのひとつです。

第75回微音祭では、今年度の限定企画として「きいちゃんカフェ」と「きいちゃん工房」があります。カフェでは可愛いドリンクを飲むことができ、工房ではオリジナルバッグ作りが体験できます。きいちゃんは、今年度もさまざまな場所に登場する予定なので、ぜひ探してみてください！



教員紹介

Interview

ツァンシンイー 先生

基幹研究院自然科学系 助教

Profile

香港出身。ワシントン大学を卒業後、カリフォルニア大学サンタバーバラ校に進学し、博士号(数学)を取得。清華大学丘成桐数学科学中心ポスドク、中山大学数学学院(珠海)特別研究員を経て、2021年4月より本学に着任。

Q1 研究の内容を易しく教えてください。ワクワクすることはありますか。

大学院の時は代数的整数論を研究していましたが、現在は群論とskew brace論を中心に研究を行っています。私の研究はとても抽象的で、様々な代数的対象の理論の構築に取り組んでいます。数式を扱うことが少なく、計算があっても具体的な数字ではなくアルファベットと記号のみの場合が多いです。正則部分群というものをグラフと対応させて、グラフ理論を用いて数え上げたこともあります。

研究は授業と違って、証明できる定理も証明で使う道具も分からない状態でやらなければなりません。具体例を調べたり先行研究を参考にしたりして、手探りしながら取り組んでいきますが、解決の糸口が見つかりそうな時にすごくワクワクします。実際に詳細を確かめてみると、上手く行かず落胆する事も多々ありますが、そこも研究の醍醐味だと思います。また、自分の研究に専門外の実験分野が関わってきた時にも、こんな応用があるのだ・こんな繋がりがあるのだとワクワクします。

Q2 研究者・大学教員を志したきっかけをお聞かせください。

中学生の頃から教えるのが好きで、他の職業に

は向いていない自覚もあったので、教師になるとは思っていませんでした。大学院に入って、勉強・研究・TAの仕事はもちろん、研究集会で他の人と交流するのも研究発表をするのも、すべてが楽しかったです。これといったきっかけはないですが、自分には合っていると思ったので、自然と大学教員を志しました。

Q3 多くの国での経験をお持ちですが、日本との違い、特徴などをお聞かせください。

高等教育はアメリカで受けましたが、日本の大学ととても文化が違いました。日本では入学前に学科を選ばなければならないのですが、アメリカではある程度授業を受けてから専攻を決めます。また、少なくとも数学の分野では、卒論を必須としない大学が多いと思います。研究室という概念も本学に着任してから知りました。大学院の時でも、指導教員選びも本格的に研究に取り組み始めたのも、講義を受けて基礎を固めてからでした。そのほかに、数学に限った話かもしれませんが、アメリカでは一貫制博士課程が主流で、一般的には学費免除の代わりにTAの仕事をして給料も貰えるのが私の印象です。

中国大陸の教育事情は詳しく知りませんが、他の面で違いを感じました。日本人は控えめというイメージがあるのに対して、中国人は遠慮しないこと

が多いです。中国大陸で生活したのは3年半だけでしたが、自発的に行動し自己主張しないと損をすると感じました。また、日本のおもてなし文化とは種類が違いますが、中国人もおもてなしするのが好きな印象があります。色んな人に親切にしてもらっていたし、同年代の同性の友達と遊びに行く時でもみんな、食事だけでなく映画チケットまで奢ります。払わせてもらうのに結構大変でした(笑)。

Q4 お茶大生へのメッセージをお願いします。

お茶大生はとても真面目で良い学生さんが多いですが、おとなしすぎると感じる時もあります。授業中にレポートを解く時間を設けても、只々静かに問題を考えるだけで、分からないところがあっても質問しないこともあります。せっかく少人数授業でコミュニケーションが取りやすい環境に恵まれているので、受け身にならないでもっと積極的に発言してもらいたいと思います。自分の頭で考え続けることももちろん重要ですが、壁にぶつかってどうしても理解できない時にはやはり助けが必要だと思います。お茶大の教員は質問大歓迎だと思うので、分からないことを分からないままにしないようにしましょう。

担当:宮崎 充彦
基幹研究院自然科学系 准教授

Q1 現職に就いた経緯やお仕事の内容を教えてください。

小学生頃から漠然と学校の先生になりたいと思っていました。しかし高校2年生の進路選択の際、教育学部に進学するか、どの科目を専門とするかで迷いました。考えていく中で、家庭科は生涯にわたって役立つ教科であり、しっかり学び直したいと思い、お茶大の生活科学部に進学しました。

大学では教職課程を履修する学生は周りに多くいましたが、教員を志望する学生は少なく、不安になることもありました。しかし、教職課程で学んだ知識を活かしたい、子どもとかわる仕事がしたい、という思いから、教員採用試験に専念しました。高校まで共学校に通っていましたが、女子大で4年間過ごし、色々なことに挑戦できる環境に魅力的に感じたので女子校で勤務することに決めました。

現在は高校1年生のクラスを担当しています。中学入学時から4年間担当している生徒たちとの関係性も構築されてきて、毎日が充実しています。中学校・高校の家庭科の授業だけでなく、クラスの生徒の対応や課外活動、校務分掌など仕事内容は多岐にわたりますが、生徒とかわる中で自分自身の言動を意識することが多いです。調理実習、被服製作などの家庭科の授業や宿泊学習、文化

祭などの行事を通じて生徒たちの成長を感じたときや、授業を担当した生徒や担任のクラスの生徒・保護者からお礼の言葉をいただいたときにやりがいを感じます。

Q2 大学での経験は現在にどのように活かしていますか。

生活文化学講座では宮内貴久先生の民俗学のゼミに所属し、卒業論文は初誕生と七五三を中心とした産育儀礼の実態と変化について執筆しました。家庭科の授業でこの内容に触れられるのは家族・家庭生活や保育の単元の限られた時間ですが、生徒は興味深く話を聞いてくれます。卒業論文を執筆する過程でSNSや雑誌、文献などさまざまな資料を読み込んだことも、現在の授業準備に活かしています。

在学時にはネパールのスタディツアーやフェアトレード商品を扱うNPO団体のインターンシップに参加する授業も受講しました。衣生活に関する授業で自分が途上国で目にしたものやフェアトレードの実態について話すことで、少しでも生徒たちが知見を広げ、海外の状況に目を向けられるようにすることを意識しています。

Q3 お茶大生にメッセージをお願いします。

お茶大は授業で主体的に行動できる場面が多く、新しいことに挑戦できるチャンスがたくさんあります。学部4年間はあっという間に終わってしまうので、迷うことがあればぜひ行動に移してみてください。

また、お茶大は先生方との距離が近く、就職活動に関することなどを相談しやすい環境だと思います。親友と将来設計について何時間も語り合ったこともいい思い出です。将来について不安に思うこともあるかもしれませんが、一人で考え込まないで、多くの人から意見を貰ってください。

最後に、教職課程を履修している学生の皆さんへ。教員は大変な仕事だというイメージが大きいかもしれませんが、春夏秋冬の流れの中で子どもたちと一緒に自分も成長できるやりがいのある仕事で、毎日の刺激も大きいと思います。ぜひ教員になることも検討してみてください。

担当:今泉 修
人間発達教育科学研究所 准教授

卒業生紹介

Interview

大竹 遥 さん

江戸川女子中学・高等学校

Profile

2020年3月、お茶の水女子大学生活科学部人間生活学科生活文化学講座卒業。
2020年4月より江戸川女子中学・高等学校に勤務。

生徒たちと

日々成長しています

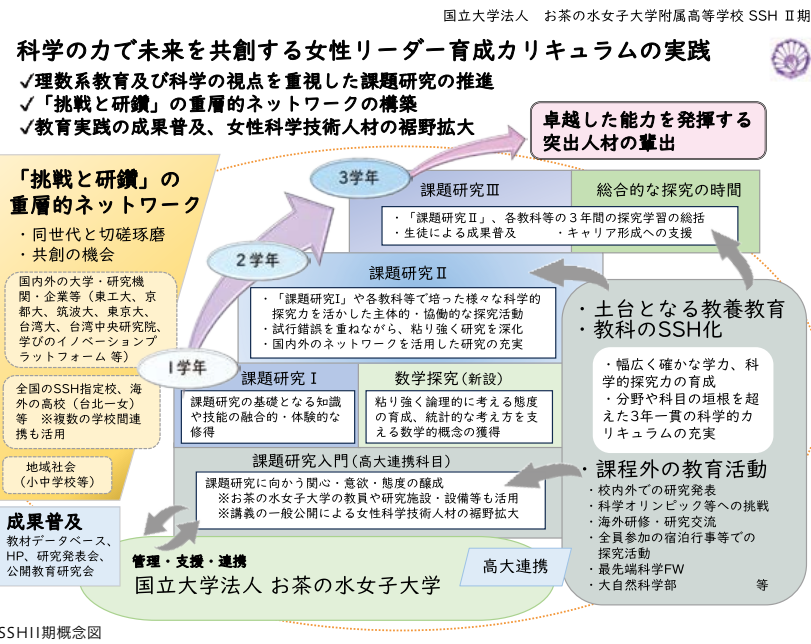
Haruka Otake

附属学校園からの お知らせ

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業 第Ⅱ期



附属高校は、第Ⅰ期(2019～23年度)に引き続き、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)Ⅱ期の指定を受けました(2024～28年度)。
研究開発課題を「科学の力で未来を共創する女性リーダー育成カリキュラムの実践」とし、確かな学力、豊かな教養を土台に、
科学的な素養や卓越した科学的探究力を備え、他者と未来を共創する女性リーダーの育成を目指しています。



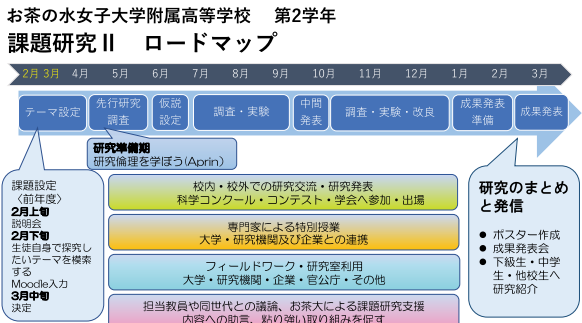
SSHⅡ期概念図



数学探究



数学探究



2024課題研究Ⅱロードマップ

Ⅱ期の研究開発は ①自然や社会の諸事象に広く関心を持ち、物事の本質理解に努め、知識や経験を統合して、科学的探究力と豊かな発想で諸課題の解決に挑む生徒の育成。理数系分野において卓越した能力を発揮し、国際社会をリードする研究者等を志す突出人材の輩出。②①に資する「理数系教育及び科学の視点を重視した課題研究の推進」を主眼とした3年一貫の科学的カリキュラムの実践。③国内外の科学技術人材や大学・研究機関、企業、他の SSH 指定校、地域の小中学

校等を含む幅広いネットワーク(「挑戦と研鑽」の重層的ネットワーク)の構築及び活用。④生徒の研究成果や教員の教育実践の更なる普及。女性科学技術人材の裾野拡大に向けた取組の充実。以上4項目を目標として、全校体制で取り組んでいます。

第1学年では、数学の学校設定科目「数学探究」をおき、数学の面白さや魅力に触れつつ、本質的な理解を促し、粘り強く論理的に思考する能力を育む様々な課題に取り組みます。課題研究や全ての教科学習の基礎となる、簡単に答えにたどりつかない問いや本質を追究する粘り強い学習姿勢や論理的・批判的思考力の錬成を目指します。また、理科・数学・情報の教科横断的な科目として「課題研究Ⅰ」(SSH学校設定教科「課題研究」)を開設し、科学的探究力の礎となる知識・技能や科学的探究力を融合的・体験的に身に着け、2学年「課題研究Ⅱ」において活用できることを目指します。第2学年の「課題研究Ⅱ」では、個人や2～5名程度のグループで、科学的事象や社会課題について、自らの興味関心に沿って研究テーマを設定し、十分な時間をかけて研究活動に取り組みます。第3学年の「課題研究Ⅲ」では、希望生徒が「課題研究Ⅱ」の研究について、校外の発表や国内外の同世代との研鑽を重ねながら質を高め、研究発表会や学会で成果を発信します。

管理機関であるお茶の水女子大学は理系女性人材育成に係る豊富な実績があり、高大で課題を共有しながら、連携・協働した取組を進めることができる点は、本校 SSH 事業の強みであり、その成果が期待されています。



化学実験



七女子お茶大夏の研修会



課題研究Ⅰ発表会



七女子お茶大春の研究発表会



大自然科学部FW 月光天文台



台湾研修 アカデミアシニカ



大自然科学部FW 伊豆大淀小淀柱状節理



国際学会(アジア栄養学会)ポスター発表

附属学校園での出来事 2024年 7月～9月

sep. 9

Aug. 8

Jul. 7

附属高等学校

- 保護者会(1～3年)
- お茶大英語によるサマープログラム(8月)
- 終業式・3年三者面談(8月)

附属中学校

- 第1回学力テスト(3年)
- 学年別保護者会・終業式
- オープンスクール(お茶中生がガイドする校舎見学ツアー)
- 帰国編入検定・発表
- お茶大英語によるサマープログラム

附属小学校

- 避難訓練・保護者会(1～6年)
- 個人面談・林間学校(裏磐梯)(6年)
- 終業式

附属幼稚園

- 幼稚園主催講演会
- 5歳児バス遠足(葛西臨海水族園)・七夕誕生会(7月・8月合同)・終業式
- セミの羽化を観る会(5歳児親子希望者)

いずみナーサリ

- 七夕・水遊び
- 避難訓練(地震・水遊び中)

こども園

- 七夕・7月誕生会・水遊び・プール遊び
- 避難訓練・安全指導
- 終業式・8月誕生会
- 乳児健康診断
- 1号・夏季休業開始
- 1号登録・2号・3号・夏の保育開始
- 夏まつり

附属高等学校

- お茶大夏の研修会(関東地区SSH指定7女子高校等研究交流会)
- 学力テスト(3年)

附属中学校

- 工場見学会(理系女性育成啓発研究所主催)
- 2学期始業式

附属小学校

- 帰国児童入学検定
- 林間学校(八子ヶ峰)(5年)

いずみナーサリ

- 水遊び
- 避難訓練(火災・不審者)

こども園

- 水遊び・プール遊び
- 乳児健康診断
- 避難訓練・安全指導
- コンサート(お茶大有志吹奏楽)
- 1号・夏季休業終了
- 1号登録・2号・3号・夏の保育終了

附属高等学校

- 始業式・第Ⅱ期教育実習
- 第2回学校説明会(Web配信)3月まで
- 文化祭(輝鏡祭)
- 2年課題研究中間発表会
- 2年進路講演会

附属中学校

- 第Ⅱ期教育実習
- 第2回学力テスト(3年)
- 自主研究講堂発表会
- 生徒祭

附属小学校

- 始業式・不審者対応訓練
- 栄養教育実習・水泳学習終了
- 保護者会(2・5・6年)
- 校外学習(2・3・4年)

附属幼稚園

- 始業式・クラス懇談会
- 教育実習(後期2週間)・避難訓練
- 誕生会(9月)
- PTAつばみ会主催講演会

いずみナーサリ

- 水遊び終了・個人面談
- お月見・カレーパーティー
- 避難訓練
- (首都圏大地震・引き渡しおよび安全確認訓練)

こども園

- 始業式・避難訓練・安全指導
- 遠足(5歳児)
- お月見・9月誕生会・乳児健康診断
- 第2回ワクワクデー
- 水遊び・プール遊び終了



Ochadai GAZETTE

vol.278
Autumn
2024

発行日 / 2024年11月6日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報担当

E-mail : info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、
本学ホームページに掲載されています。
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学は
2025年に創立150周年を迎えます



お茶の水女子大学
Ochanomizu University